

科目名	社会福祉原論
科目責任者	大友信勝
単位数他	2単位 (30 時間) 必修 秋
科目の位置付	(3) 自らの研究分野以外の幅広い視野を持ち、俯瞰的なものの見方と専門応用力を駆使して、新たな知を創ることができる。
科目概要	社会福祉とは何か、社会問題を中心にして実証的に分析し、政策、理論形成の要因、特徴を考察する。 現代社会事業の成立と展開を歴史的に、社会・経済的な時代背景と社会運動の相互関係をおさえながら理論的に展開する。戦後における社会福祉理論の展開は一番ヶ瀬の著作を中心に引きあげる。
到達目標	社会福祉理論の形成、成立は、主としてどのような社会的要因が影響、関連するのか。いわゆる「対象」となる社会問題か、ときの財政問題か、それとも飴と鞭による政策主体の都合か。いまは、どのような時代なのか。グローバル化、南北問題、市場原理による貧困・格差、世界を不安定化する難民、新たな移民問題とその排除と差別が失業、非正規問題と絡んで複雑に展開している。人権と尊厳、生活と生命を守る社会福祉政策を形成するために、歴史から何を教訓に引き出すのか。について、自分自身の意見で語れることが到達目標である。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名> 第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：現代社会事業の成立——米騒動 第 3 回：大阪における方面委員制度 第 4 回：救護法の成立と実施促進運動 第 5 回：戦後における社会福祉——民生委員から社会福祉主事へ 第 6 回：朝日訴訟の社会的背景と論点 第 7 回：社会福祉研究運動の設立——社会福祉の専門性 第 8 回：生活問題研究と社会福祉 第 9 回：生活史研究と社会福祉 第 10 回：社会福祉の国際比較——北欧モデルの特徴 第 11 回：福祉政策の転換——ワークフェアの新たな動向 第 12 回：障害者と高齢者問題 第 13 回：格差・貧困問題と社会福祉 第 14 回：生活困窮者自立支援と自助・互助原則 第 15 回：これからの社会福祉

学修方法	講義と討議を組み合わせで実施する。
評価方法	レポート 60%、討議への参加 40%で評価する
課題に対するフィードバック	課題提出後の面談を中心にフィードバックを行います。
指定図書	一番ヶ瀬康子の著作から代表論文を選んで指定図書にかえる
参考書	授業中に随時連絡する。
事前・事後学修	事前学修；シラバスに示したテーマを学修する。(40 分) 事後学修；講義内容を振り返る学修(40 分)
オフィスアワー	研究室(5703)にて、自由に研究相談に応じます。 時間については、初回授業時に提示する。

科目名	ソーシャルワーク論																														
科目責任者	福田 俊子																														
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春																														
科目の位置付	6. 高度専門職連携をすすめ、その連携・協働を通じて、人々の健康・福祉・安寧に貢献できる。																														
科目概要	本科目は、これまでにソーシャルワークに関する学修経験のない学生を対象とした「ソーシャルワークの導入科目」として位置づけられている。ソーシャルワーク実践の基盤となる理論やモデルの基本的な知識を修得することを通して、ソーシャルワークの「ミクロ・メゾ」領域における「事象の捉え方の枠組み」について理解を深めることを目的としている。																														
到達目標	1. ソーシャルワークの基本的なモデルやアプローチについて、その概略を説明できる。 2. ソーシャルワークの視点で自らの現場体験を捉えなおしすることができる。																														
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ <table border="0"> <tbody> <tr> <td>第1回：オリエンテーション</td><td>福田</td></tr> <tr> <td>第2回：人を助けるといこと、ソーシャルワークの視点</td><td>福田</td></tr> <tr> <td>第3回：社会福祉の理念 (ノーマライゼーション、クオリティ・オブ・ライフ、エンパワメント)</td><td>福田</td></tr> <tr> <td>第4回：ソーシャルワークの歴史</td><td>福田</td></tr> <tr> <td>第5回：ソーシャルワークの主要なモデル</td><td>福田</td></tr> <tr> <td>第6回：ソーシャルワークの展開過程とバイステックの7原則</td><td>福田</td></tr> <tr> <td>第7回：グループワークの歴史と主要なモデル</td><td>福田</td></tr> <tr> <td>第8回：グループワークの展開過程とセルフヘルプグループ</td><td>福田</td></tr> <tr> <td>第9回：イギリス・コミュニティケア改革とソーシャルワーク</td><td>川向</td></tr> <tr> <td>第10回：地域を基盤としたソーシャルワークの日本的展開</td><td>川向</td></tr> <tr> <td>第11回：ケアマネジメントの実践理論</td><td>川向</td></tr> <tr> <td>第12回：ケアマネジメントの実践課題</td><td>川向</td></tr> <tr> <td>第13回：コミュニティソーシャルワークの実践理論</td><td>川向</td></tr> <tr> <td>第14回：コミュニティソーシャルワークの実践課題</td><td>川向</td></tr> <tr> <td>第15回：IPW・多職種連携・協働の実践課題</td><td>川向</td></tr> </tbody> </table>	第1回：オリエンテーション	福田	第2回：人を助けるといこと、ソーシャルワークの視点	福田	第3回：社会福祉の理念 (ノーマライゼーション、クオリティ・オブ・ライフ、エンパワメント)	福田	第4回：ソーシャルワークの歴史	福田	第5回：ソーシャルワークの主要なモデル	福田	第6回：ソーシャルワークの展開過程とバイステックの7原則	福田	第7回：グループワークの歴史と主要なモデル	福田	第8回：グループワークの展開過程とセルフヘルプグループ	福田	第9回：イギリス・コミュニティケア改革とソーシャルワーク	川向	第10回：地域を基盤としたソーシャルワークの日本的展開	川向	第11回：ケアマネジメントの実践理論	川向	第12回：ケアマネジメントの実践課題	川向	第13回：コミュニティソーシャルワークの実践理論	川向	第14回：コミュニティソーシャルワークの実践課題	川向	第15回：IPW・多職種連携・協働の実践課題	川向
第1回：オリエンテーション	福田																														
第2回：人を助けるといこと、ソーシャルワークの視点	福田																														
第3回：社会福祉の理念 (ノーマライゼーション、クオリティ・オブ・ライフ、エンパワメント)	福田																														
第4回：ソーシャルワークの歴史	福田																														
第5回：ソーシャルワークの主要なモデル	福田																														
第6回：ソーシャルワークの展開過程とバイステックの7原則	福田																														
第7回：グループワークの歴史と主要なモデル	福田																														
第8回：グループワークの展開過程とセルフヘルプグループ	福田																														
第9回：イギリス・コミュニティケア改革とソーシャルワーク	川向																														
第10回：地域を基盤としたソーシャルワークの日本的展開	川向																														
第11回：ケアマネジメントの実践理論	川向																														
第12回：ケアマネジメントの実践課題	川向																														
第13回：コミュニティソーシャルワークの実践理論	川向																														
第14回：コミュニティソーシャルワークの実践課題	川向																														
第15回：IPW・多職種連携・協働の実践課題	川向																														

学修方法	講義、発表、討論を組み合わせて進める
評価方法	プレゼンテーション 20%、授業への参加態度 20%、レポート 60%
課題に対するフィードバック	レポートに評価コメントを付けて返却する。
指定図書	稲沢公一・岩崎晋也『社会福祉をつかむ』有斐閣
参考書	授業中に随時提示する。
事前・事後学修	履修者は全員、テキストを熟読し、要点をつかんでおく。(30 分程度) 発表者は、レジメを作成する。(1 時間程度) 中間レポートを作成することで、理解の深度をする。(3 時間程度)
オフィスアワー	研究室は 2614。オフィスアワーの時間については、初回授業時に提示する。

科目名	福祉思想
科目責任者	福田 俊子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	1. 「生命の尊厳と隣人愛」の精神を基盤とする福祉の思想、倫理観を身に付け、研究・実践・教育に反映することができる
科目概要	我が国における少子高齢社会の到来は、日本社会のあり方を根底的に揺さぶる事象となっている。このような状況にある今だからこそ、社会や人の基盤を支える「思想」が、改めて重要な意味をもつようになってきている。 本講義では、現代の日本社会が直面する問題を見据えながら、これまでの福祉思想の歴史を振り返り、今後の日本社会で求められる福祉思想のありようについて考察する。
到達目標	1. 我が国の福祉思想の歴史について、その概略を説明できる。 2. 自らの臨床体験を支える福祉思想について、自分の言葉で説明できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第1回：オリエンテーション 第2回：「福祉」の意味と幸福 第3回：「幸福」は政策目標となりうるか 第4回：福祉を考える座標軸 第5回：福祉思想の再構築 第6回：社会構想ー持続可能な福祉社会へ 第7回：中間のまとめ 第8回：福祉と「宗教」① なぜいま宗教の公共的役割なのか 第9回：福祉と「宗教」② 相互扶助の宗教伝統をどう現代に活かせるか 第10回：福祉と「宗教」③ 賀川豊彦と公共福祉 第11回：福祉と「宗教」① 創発民主主義の展開 第12回：「生命」と日本の福祉思想① 歴史の中の福祉ーその萌芽から現代までー 第13回：「生命」と日本の福祉思想② 社会事業家に見る「福祉の哲学」の多様性 第14回：「生命」と日本の福祉思想③ 「生活モデル」から「生命モデル」へ ー自己組織的生命観に基づく福祉思想との関連性ー 第15回：まとめ

学修方法	講義、発表、討論を組み合わせて進める
評価方法	プレゼンテーション 20%、授業への参加態度 20%、レポート 60%
課題に対するフィードバック	レポートに評価コメントを付けて返却する。
指定図書	広井良典『福祉の哲学とは何かーポスト成長時代の幸福・価値・社会構想』ミネルヴァ書房
参考書	授業中に随時提示する。
事前・事後学修	履修者は全員、テキストを熟読し、要点をつかんでおく。(30 分程度) 発表者は、レジюмеを作成する。(1 時間程度) 中間レポートを作成することで、理解の深度をする。(3 時間程度)
オフィスアワー	研究室は 2614。オフィスアワーの時間については、初回授業時に提示する。

科目名	社会福祉政策論
科目責任者	川向雅弘
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春
科目の位置付	5. 研究計画に沿って仮説を実証するための研究方法を身につけ、データ収集、データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ、発表することができる
科目概要	社会福祉政策の歩みを、障害者福祉領域を中心に分析し、政策形成の要因、特徴を考察する。具体的には、身体障害者福祉法と精神薄弱者福祉法の制定過程、社会福祉基礎構造改革以降の諸政策について、社会・経済的な時代背景との関係をおさえながら検討する。
到達目標	社会福祉政策の形成、成立に、どのような社会的要因が影響、関連していたのか。社会情勢と歴史的背景とともに検討する。そして、今日の社会福祉政策とどのように関連し、どう評価すべきかについて、自分自身の意見として語れることを到達目標とする。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション 第2回：維新期の不具廃疾者問題 第3回：国家体制確立期の障害者問題の拡大 第4回：危機進行期の障害者保護の展開 第5回：GHQ と戦後混乱期の障害者対策 第6回：身体障害者福祉法の成立と障害者の生活 第7回：障害者福祉総合対策の開始 第8回：児童福祉法と知的障害児者 第9回：精神薄弱者福祉法成立の背景① 第10回：精神薄弱者福祉法成立の背景② 第11回：知的障害者施策の基本的問題点—親の機能— 第12回：知的障害者施策の基本的問題点—「暮らし」の視点— 第13回：社会福祉基礎構造改革と社会福祉施策① 第14回：社会福祉基礎構造改革と社会福祉施策② 第15回：まとめ

学修方法	講義と討議を組み合わせで実施する。
評価方法	レポート 60%、討議への参加 40%で評価する
課題に対するフィードバック	課題提出後の面談を中心にフィードバックを行います。
指定図書	山田明『日本の障害者 明治・大正・昭和』明石書店
参考書	授業中に随時紹介する。
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示したテーマを学修し質問を用意する。(40 分) 事後学修：講義内容を振り返る (40 分)
オフィスアワー	川向雅弘：2705研究室 時間帯については授業時に提示します。

科目名	地域福祉論
科目責任者	佐藤順子
単位数他	2単位（30時間） 選択 春
科目の位置付	3. 自らの研究分野以外の幅広い視野を持ち、専門応用力を身につけ、専門性の高い活動を実践することができる
科目概要	近年、特に社会福祉法成立により、「地域福祉の主流化」とよばれるように、地域福祉は社会福祉の一分野にとどまらず、社会福祉の今後のあり方に関わる概念として重視されている。この科目では主に地域福祉の政策、理論、実践について、体系的な理解を深める。
到達目標	1. 地域福祉、地域福祉政策の発展過程が理解できる 2. 近年の地域福祉政策の課題が背景とともに理解できる 3. 地域福祉理論の諸特徴が理解できる 4. 地域福祉の主体が理解できる 5. 地域福祉推進の方法、専門職の役割が理解できる
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション 地域福祉、地域福祉政策の発展過程① 第2回：地域福祉、地域福祉政策の発展過程② ” ② 第3回：近年の地域福祉が必要とされる背景 第4回：近年の地域福祉政策の課題① 「我が事丸ごと地域共生社会」構築 第5回：近年の地域福祉政策の課題② 平成27年度介護保険法改正と新総合事業 第6回：近年の地域福祉政策の課題③ 生活支援体制整備事業 第7回：地域福祉の主要な理論 類型化と主な理論の特徴 第8回：地域福祉の対象課題 第9回：地域福祉の主体① 社会福祉協議会 第10回：地域福祉の主体② 民生委員・児童委員 第11回：地域福祉の主体③ 地域福祉推進基礎組織 第12回：地域福祉の主体④ 行政、社会福祉法人、その他 第13回：地域福祉の実践① DVD視聴 第14回：地域福祉の実践② 組織化活動（小地域、当事者、ボランティア） ネットワークづくり その他 第15回：地域福祉の推進方法 コミュニティワークとコミュニティソーシャルワーク

学修方法	講義、発表、討論で進めていく
評価方法	プレゼンテーション 30%、討議への参加度 20%、レポート 50%
課題に対するフィードバック	発表、討論のつど、フィードバックを丁寧に行う
指定図書	牧里毎治編著 『改訂版 地域福祉論 住民自治と地域ケア・サービスのシステム化』 日本放送出版協会
参考書	岡村重夫『地域福祉論』（新装版）光生館 右田紀久恵『自治型地域福祉の理論』ミネルヴァ書房 ほか、授業の中で適宜提示
事前・事後学修	事前に指定図書・論文を熟読する。発表担当者はレジュメにまとめ、報告する
オフィスアワー	科目責任者の研究室は 2606 です。時間については授業時に提示します。

科目名	介護福祉論
科目責任者	太田 貞司
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	「生命の尊厳と隣人愛」の精神を基盤とする倫理観を身に付け、研究・実践及び自らの行動に反映することができる
科目概要	「介護」また「介護福祉」とは何を目的に支援する実践か、介護福祉実践はどのような理念・知識、専門的判断力、技術を持つ実践なのか、を考える。先進国と我が国のケアワーカー制度の位置づけとその課題を踏まえつつ、医療、ケア、社会福祉と介護福祉の関係を論じる。「生活主体者」(一番ヶ瀬)の「日常生活の営み」支援に関する思想的系譜として、介護福祉士誕生後の介護福祉における「日常生活の営み」概念をめぐる論争を看護と社会福祉の視点から振り返る。この間の介護職チームの形成、そのリーダー論を論じ、心身の障害がある人たちの地域社会における「日常生活の営み」支援の実践的・理論的蓄積を論じる。また、地域包括ケアシステムにおける介護福祉士の役割機能を実証的にとらえ、新たな地域型介護福祉士の可能性を検討し、認定介護福祉士等の介護福祉士のキャリアパスを示す。
到達目標	1. 「ケア」「介護」「介護福祉」を説明できる。 2. 介護福祉士の役割機能を説明できる。 3. 介護職のチームまたそのリーダーの意味を理解でき、説明できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第1回 介護福祉が求められる社会的背景 第2回 「ケアワーク」、「介護」と「介護福祉」 第3回 「日常生活の営み」支援の見え難さ 第4回 「介護」と「介護福祉」の歩み 第5回 介護福祉登場前の実践と到達点 第6回 介護福祉の登場とその対象者 第7回 介護福祉の支援 第8回 介護福祉の理念 第9回 介護職チームの形成とリーダー 第10回 要介護者を生活主体としてみる 第11回 介護福祉の実践を巡る議論 第12回 地域包括ケアシステム時代の介護福祉 第13回 ICF の活動と介護福祉実践 第14回 諸外国のケアワーカー 第15回：まとめ：2040 年の介護福祉

学修方法	講義
評価方法	講義への参加度、取り組み 70%。レポート 30%。
課題に対するフィードバック	レポート提出後、レポートにコメントし返却。
指定図書	太田貞司等『生活支援総論』（光生館、2014）。
参考書	一番ヶ瀬康子（2003）『介護福祉学の探求』（有斐閣）。太田貞司（2013）「一番ヶ瀬社会福祉論と介護福祉論」（岩田正美等編『一番ヶ瀬社会福祉論の再検討―生活権保障の視点と広がり』ミネルヴァ書房に収録）。
事前・事後学修	事前に太田貞司等『生活支援総論』（光生館、2014）を読み、介護、介護福祉とは何かをまとめる（10時間）。事後学修として、介護福祉士を核とした介護職チームが実践する事例を踏まえ、介護福祉について説明する（10時間）。
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。